

翔陽高校の生徒の皆さんへ 一校長メッセージ（10）

令和六年度 第二十回 東京都立翔陽高等学校 入学式式辞

色鮮やかな若葉が美しい季節を迎えた今日の佳き日、令和六年度東京都立翔陽高等学校第二十回入学式を挙げていただくことは、教職員一同この上ない喜びであり、心よりお慶び申し上げます。本校を代表し、深く感謝申し上げます。ご多用の中、ご臨席いただきました保護者の皆様、お子様のご入学、誠にありがとうございます。

翔陽高校の制服を着て本校の校門をくぐった第二十期生となる新入生237名の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは今日、晴れて本校の一員になりました。皆さんの表情からは、これから始まる高校生活への大きな期待と決意が感じられ、頼もしい限りです。教職員、そして在校生一同、皆さんを心から歓迎いたします。

本校は、平成十七年に普通科単位制高等学校として開校し、「自学・自立・自信」をモットーに、探究的な学び・キャリア教育・国際理解教育・豊かな人間性の育成に重点を置いた教育活動を展開し、探究学習の実践を通して、国際社会で活躍できる、創造性や対人能力を身に付けた生徒を育成することをスクール・ミッションとして掲げています。本校は今年度、東京都教育委員会より「進学指導研究校」、「英語教育研究推進校」、「海外学校間交流推進校」等の指定を受けています。また、生徒一人1台端末の活用を含めICTの有効活用を進めるなど、特色ある教育課程のもと、基礎学力の定着とともに学力の伸長を図り、生徒の進路希望の実現に全力で取り組んでいる学校です。また、広い校地と恵まれた施設や自然環境を活かし、部活動や学校行事が盛んで元気あふれる生徒の笑顔が美しい、今年度創立二十周年を迎える学校です。

ここで、これから高校生活を送るにあたり、ぜひ皆さんに取り組んでほしいことをお話しします。今年は桜の開花が例年より遅かったこともあり、ちょうど今満開となった学校周辺の桜が皆さんの入学を迎えてくれています。その桜の木を使った「桜染め」の話をします。桜染めというのは、桜の木を使って白い布を染める染物のことで、色合いは本当に桜の花の色と同じ淡いピンク色になります。この桜色は、桜の花びらを使って出すように思われるかもしれませんが、実はそうではないのです。この美しい色は、桜の木のあのごつごつとした樹皮、つまり木の皮を使うのだそうです。しかも、この色は一年中どの季節でも採れるわけではなく、桜の花が咲く直前のちょうど三月の頃のものでなければいけないそうです。

どうして桜の幹からこの淡いピンク色が出て来るのか、どうしてその時期のものでないといけないのか不思議だとは思いませんか？ これは、桜の木が間もなく花を咲かせようとする時期に、桜の花の色を花びらだけでなく木全体に蓄え、木全体が桜の色をしているからなのです。私たちは、桜の花のあのきれいな色を桜の花びらの色だと感じていますが、実はあの色は木全体に蓄えられた桜の木全体の色なのです。花びらの色は幹の色であり、樹皮の色であり、樹液の色なのです。桜は全身で桜色に色づいていて、木全体に蓄えたあの淡い桜色を花に注ぎ込み、花びらは木全体を代表して桜色を表しているのです。私たちは一週間ほどしかあのきれいな花を見ることができません。しかし、桜の木はそのたった一週間のために、一年をかけてコツコツと桜の色を貯めてきているのです。そして春の暖かな陽気を感じた時に、今が一年間蓄えたものを一気に出す時だと感じて、あのきれいな花を咲かせるのです。

このことは、皆さんの学校生活にも当てはまることだと思います。これから高校生活を始める皆さんは、桜の木とは違い三年間をかけて自分の色を蓄えていくこととなります。そして卒業を迎えたときに、三年間本校で蓄えてきたものを、桜の花と同じように一気に示すこととなります。それは三年間学んだものであったり、部活動や学校行事で培ったものであったりするでしょう。その時の色は、皆さん一人ひとり異なると思います。皆さんそれぞれが、三年という年月をかけて自分の色を蓄え、一気に咲かせる時が来ます。そのために皆さんは、これからそれぞれの色を自分の中にしっかりと蓄えてほしいと願っています。そして一人ひとりがそれぞれの色できれいな花を咲かせられるよう、これからの学校生活を一日一日大切に過ごしてください。そうすることは、本校の教育目標の1つである「自立」、つまり「自分の頭で考え、自分の意思で行動すること」に繋がるはずです。

心理学者の河合隼雄さんは著書の中で、「自立とは、独りで生きることではない。まして、孤立ではない。自立している人とは、適切な依存ができて、そのことをよく自覚している人なのだ」と言っています。みなさんもきっと今後の人生で人の恩を感じ、自分は誰かに支えられていると実感することがあるでしょう。その瞬間が自立できた自分に気づいた時かもしれません。三年後に高校を卒業した後は、家族と離れて一人で暮らす人も多いと思います。毎日のように顔を合わせていた高校時代の友人とも離れて、人とのつながりも変わり自分と向き合う時間も多くなるでしょう。もちろん一人で頑張ることは大切ですが、あるときは適切に人に依存することも必要かもしれません。誠実に生きることを貫けば相手にも理解され、あなたをきっと支えてくれることにもつながると思うのです。恩を感じて生きていく、「あの人のおかげで私の今があるのです」と言える感謝の気持ちを持ち続けることのできる自立した若者を目指してください。私は、翔陽高校の新入生である皆さんが巻き起こす新しい風に期待しています。そのために皆さんには三月の入学説明会で私がお話した三つのCを是非実践してください。三つのC、覚えていますか？ Challenge、Continue、Createでしたね。

さて皆さんもご存じのとおり、今年1月の能登半島地震では多くの尊い命が失われ、今も避難所生活を余儀なくされている方がたくさんおられます。復興には相当な時間がかかるものと思いますが、震災発生当初から多くのボランティアの方々が支援に駆けつけ今も各方面から多くの募金や救援物資が寄せられています。そこには、被災地の人たちの苦しみを身に受け、心をつないで支援し、希望を持って未来を築こうとする多くの人の思いがあります。私は、どんなに世の中が便利になろうとも、人それぞれ健やかな心を持って、多くの人との絆を大切にしていくことが社会を作る基盤にあると考えています。新入生の皆さんには、多くの人との関わりの中で、自分の夢を紡ぎ、自分だけの花を咲かせてほしいと願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針を御理解いただきながら、学校との密接な連携をもとに教育活動を進めていきたいと考えております。私たち教職員一同、皆様からお寄せいただいた大きな期待をしっかりと受け止め、新入生の皆さんの成長と大きな志の実現のために一丸となって尽力することをここにお願い申し上げます。新入生歓迎の式辞といたします。

令和六年四月九日

東京都立翔陽高等学校長 博田 英明